

着付け体験 伝統を学ぶ

東部中1年生「松山能」講座

酒田市松山地域に江戸時代中期から伝わる民俗芸能「松山能」（県指定無形民俗文化財）について理解を深める講座が21日、同市字新屋敷の松山城址館で開かれ、地元・東部中学校（赤塚校美校長）の1年生75人が装束の着付けを体験するとともに、松山能を継承する「松諷社」（榎本和介会長）による演能を鑑賞した。

5日に開講、同日は榎本会長ら松諷社メンバーが松山能の歴史、能面や囃子で使用する楽器について分かりやすく講話した。

第2講となったこの日は、代表生徒3人が唐織やのしめ、半切など実際の能装束を用いて▽里女▽武将▽僧侶の着付けを体験した他、松諷社メンバーが能「吉野天人」の後半部分を披露した。着付けを体験した生徒たちは「意外と重い。腰も痛い」「長時間着ていると暑くなる」「腰の部分がとても重い」とそれぞれ感想。他の生徒、教職員の要望に応じて舞台上でポーズを取った後、拍手の中、橋掛かりを渡って退場した。

榎本会長は「平田地域にも素晴らしい民俗芸能が残っている。若い世代から地域の文化を知ってもらい、古里を大切にする気持ちを育んでもらえたら」と話した。

同校は本年度、酒田DMO、プレスページ・インターナショナル山形BPOパーク、JR東日本庄内統轄センター、ANAあきんど庄内支店、NPO法人「ひらた里山の会」などの協力で「平田・松山地区の課題解決に向けた取り組み」をテーマに、地域の魅力を探し出した上で、その活用策などを考察する授業を通年で展開。今回は学区内に伝わる民俗芸能を学ぶことで古里への理解を深めるのが狙い。2回シリーズで今月

た。



能装束の着付けを体験する東部中の生徒たち 21日